（午後２時30分　再開）

○議長（岡　弘悟君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番17、20番　辻本君。

〔20番（辻本　勉君）登壇〕

○20番（辻本　勉君）皆さん、お疲れさまです。あと残り、私を含めて２人なんで、もうしばらくおつき合いください。最後、杉本君にびしっと締めていただいて、私のほうは露払い的に簡単にやりたいなと思っています。

こども食堂についてということなんですけども、これも子育てとか子どもの育成の一環ではないんかなということで、私はずっといじめ、不登校、ひきこもり、児童虐待等を含めまして子どもの健全育成にかかわってまいりましたが、そんな中で、今回大阪北部の地震で、通学路で子どもの尊い命が奪われたということと子どもの登下校の見守りに行くお年寄りの方が亡くなられたということで、大変悲しい出来事なので、こういうことが本市では起こらないように願っております。

それでは、一般質問に入りたいと思います。

本市のこども食堂について。子どもの貧困対策・ひとり親家庭への支援・孤食の子どもへの支援、及び地域での子どもの居場所づくりを目的として、今般全国的にこども食堂が開設されております。大分以前ですけど2,000を超えたということで聞いておるんですけども、全国的にかなり展開をされております。

本市においても、昨年秋から現在までに４こども食堂が開設されました。その運営方法は、個人・ＮＰＯ法人・区自治会と異なっています。しかしながら、基本的にはボランティアによる自主運営でありまして、予算的にも大変厳しい状況下にあるようであります。

このこども食堂について、県のほうは子ども未来課が中心となりまして、初期設備についての補助金制度があります。これは県費補助（２分の１の限度額20万円）があるんですけども、運営については何もないのが現状であります。担当であります橋本市の教育福祉連携推進室はいろんな意味で協力・支援・アドバイス等をされているんでありますけども、行政としてこども食堂に対して、支援を含め今後どのようにかかわるのかをお尋ねいたしたいと思います。

まず、一点目でありますけども、本市におけるこども食堂の現状についてということで、この質問をするきっかけといいますのは、私も地元のほうで、地元議員ということで私と松浦議員とでこども食堂にかかわらせていただいております。そんな中で交流会をしたときに、他のこども食堂の方から厳しい意見をいただきました。「議員さん一人として見に来てくれてないですよ」と言われまして大変残念な思いをしましたので、議員の皆さんにもこども食堂の現状をぜひとも知っていただきたいということもありまして、一つ目の質問をいたしました。

二つ目は今後の展開。現在四つしかないわけでありますけども、子育て支援の観点からいきますと、橋本市内にもっと多くのこども食堂、地域密着型のこども食堂が必要ではないんかなと思って質問をいたしました。

もともと子どもの居場所づくりということで、昔は地域子ども会がありまして、子ども会を中心として地域の保護者と地域の人、みんなが寄れる場があったんですけども、昨今少子化の中で子ども会活動につきましても衰

退をしておる現状でありますので、地域での子どもの居場所が本当にないんではないかなというふうに考えています。そのことが子どもの健全な育成を阻んでおるといいますか、情報等も入らないので、いじめや不登校があったり、児童虐待がいまだにやまないというのが現状ではないんかなと思いますので、その意味も兼ねて今後の展開について尋ねていきたいと。

最後に、補助金等行政の支援とかかわりについてであります。先ほども言いましたが、担当のほうは大変頑張っていただいておるんですけども、いかんせん、私もかかわらせていただいて、ボランティアの方も大変です。うちのこども食堂は14名のボランティアがおるんですけども、前日から準備、当日も午後２時頃から９時頃まで頑張っていただいておると。大変なボランティアをやっていただいています。

そんな中で、行政の補助というのはほんまにどういう補助をしてくれるんかなと、どういう支援をしてくれるんかなという気持ちを持っています。市長はいろんなところで、橋本市はこども食堂をやっておるという宣伝をしていただいておるんですけども、こども食堂に来られる方にいろんな話を聞きますと、「市がやっとるんと違うんですか」とか、そういう話がほとんどなんです。橋本市がやってくれとるというような考え方がたくさんあるので、実際は、はっきり申し上げまして橋本市はやっていただいておりません。地域のボランティア、個人の私財をなげうってやっていただいておるというのが現状であるので、今後、橋本市全域にやはり展開していくとなれば、行政の支援は必要不可欠でありますので、今後どのように考えていただけるんかということについてお尋ねしたいと思っております。

壇上より終わります。

○議長（岡　弘悟君）20番　辻本君の質問、本市のこども食堂に対する答弁を求めます。

総合政策部長。

〔総合政策部長（上田力也君）登壇〕

○総合政策部長（上田力也君）本市こども食堂についてお答えします。

まず、一点目のこども食堂の現状についてですが、本市では昨年７月１日に橋本こども食堂実施団体認定要綱を公布して、以降、９月に保健福祉センターでわいわいこども食堂橋本が、10月に高野口地区公民館で高野口子ども食堂が開設され、今年に入って４月に御幸辻地内の飲食店でこども食堂うさぎが、６月には原田区集会所で、橋本東こども食堂が開設されています。

こども食堂の目的は、子どもの孤食を減らすこと、子どもが安心できる地域の居場所をつくること、保護者への子育て支援という三点に集約されます。

実施主体は、市民グループ・ＮＰＯ・自治会と多様で、市民活動として運営されています。月に１回または２回、定期的に開催されており、食事の提供のほか、交流や学びの体験等が利用者に届けられています。

利用者に関して主催者の一人は、「こども食堂も回を重ねていくうちに顔と名前がつながり、きょうも来てくれるのかと心待ちするようになっています。リピーターが多いということは、この場所が必要とされているからだと思っています」と話してくれました。

次に、こども食堂の今後の展開についてのご質問にお答えします。

今後、こども食堂は、市内各地域でさらに開設されることが望ましいと考えます。先に、こども食堂の利用者は必要があって利用していると思うという事業者の声を紹介しましたが、昨年実施した子どもの生活に関する実態

調査で、母子世帯の保護者のうち42.7%が、また、全体の保護者のうち34.3%がこども食堂を利用させたいと答えています。

現在、４箇所のこども食堂を利用している親子の数は毎回230人程度ですが、利用したいという保護者の希望には沿えていない状況です。

市としましては、これから「はしっ子えがおプロジェクト」や「はしっ子えがお講座」といった事業を通じて、本市が実施した子どもの生活に関する実態調査の結果を市民の皆さまにお伝えしてまいります。また、こども食堂円卓会議等を開催し、こども食堂開設への機運が高まるよう努めてまいります。

三点目の補助金等、行政の支援とかかわりについてのご質問にお答えします。

本市がこども食堂に対して施設設備面で行っている支援は、調理施設を有する公共施設の利用料免除です。各こども食堂では企業や農家からの食材提供を受け非常に助けられているようですが、利用者の保険代、毎回の食材費等を賄うには、大人から徴収する一人300円の費用では厳しい状況であると伺っています。

今後、こども食堂の運営が継続拡大できる環境を整えるため、こども食堂実施事業者の皆さまと情報交換会を開催し、平成31年度に向け、こども食堂の運営維持、拡大につながる支援策を検討してまいります。

○議長（岡　弘悟君）20番　辻本君、再質問ありますか。

20番　辻本君。

○20番（辻本　勉君）ありがとうございます。きょうの質問の中で、一番の問題は三つ目のところなんですけども、前段の部分につきましては簡単にいきたいなと思っておるんですけども、現状の中で、教育福祉連携推進室はいろんなことをやっていただいております。まず、行政としてというか、担当室がどのようなことをやっていただいておるんかということについて、少しご披露いただきたいなと思うんですけども。

○議長（岡　弘悟君）総合政策部長。

○総合政策部長（上田力也君）現在、教育福祉連携推進室がこども食堂に係る部分についてどのようなことをしているかについてですが、現在、先ほども壇上で答弁させていただいたとおり、市としては調理施設のある公共施設、全部で12箇所になるんですけども、この部分についての無料貸し出しという支援にとどまっているところでございます。そういう状況でもございますので、できるだけ室としては運営事業者の食材でありますとか、開設の準備でありますとか、あるいは学生ボランティアの紹介でありますとか、そういう人的支援のマッチングでありますとか、そういうことを労力として事業者に提供をしているというような状況でございます。

具体的には、食べ物の食材のマッチングという点におきましては、役所のほうにも寄附したいよというそういう企業もおられまして、そういう方と事業者との間を取り持っているというそういうところ。あと、いろいろ開設に係る相談であるとか、そういったこともさせていただいておりますし、市内の高校なんですけども、そういった学校からも高校生のボランティアですね、そういう申し込みもありますので、事業者の方に寄っていただいて、そういうようなマッチングを行っているところでございます。

○議長（岡　弘悟君）20番　辻本君。

○20番（辻本　勉君）担当課のほうは十分支援といいますかをやっていただいておるんで、ありがたいということなんですけども、そしたら、今後の展開の中で、もう２番のほうなんですけども、答弁では、市内各地でさらに

開設されることが望ましと考えるというご答弁をいただいておるんですけども､そしたら、市内各地区で開設していこうと思えば、どういうことがネックになるんかということも把握してもらわないかんし、行政としてどういうことも支援していかなあかんのかということも出てくると思うんです。

実際、先ほど言われたとおり、公共施設の無料貸し出しということは出ておるんですけども、実際、公共施設で現在使っているのが２箇所ですね、保健福祉センターと高野口公民館。こども食堂、これをやっぱりもっと地域密着型で、地域で地域の子どもを育てていくんやという観点からいくとね、公民館というのは、恋野を除いて中学校区に１館という大きなくくりなんですよ。こんなんでは話にならん、はっきりいうてね。利用はただでやってもらうといえども、結構使いにくい部分があるわけですわ。そうでしょう。隅田地区で公民館だけでやれよと言うたって、隅田地域の子どもらはあそこへ来れるわけじゃないでしょう。ほんで、橋本東こども食堂は地域密着型なんで、自治会がやるから地域の集会所を使っとるわけでしょう。言うちゃ悪いけど、条例の中に原田文化センターというのが入っとるわけやけど、はっきりいって使い勝手悪いのに何でこんなん入っとるんかということなんよ。２階でしかご飯を食べられへんようなところをただで貸しますと言われたって、誰が借るんですかということなんよ。

そやから、今後の展開についてほんまに市としてどないしていくんか。望ましいというのは誰でもわかるわけや。誰が考えても、実際、やってみてでもそうやし、端から見ても子どもたちにとっていいことなんでええんやと、望ましいんは望ましい。それをどないしたら展開できるんかということを、市としてやっぱり考えていかんと。これは後の３番の分もあるんで、その辺も含めて再度質問させていただきます、その辺もね。

今後のことについて、補助金等行政の支援とかいうところをやりたいと思います。ここでゆっくりしたいなと思うんですけども、先ほど冒頭で言いましたけども、県の補助金はあるんですけども、実際、使い勝手が悪い。設備の関係ですね。初期の備品関係の補助金ということで２分１なんです。上限20万円やけど40万円使おうと思ったら、自己資金20万円要るわけですわ。こども食堂をやるのにボランティアでやっている人に、そんな自己資金、あと備品関係で20万円出せ、10万出せというわけにいかんでしょう、これは。そんなことになってきたら、はっきりいうて設備もあんまりできないという部分になってくるんです。そやから、県の補助金ってはっきりいって使い勝手が悪い。そやから、県の補助金が２分１やったら、開設に当たってね、これから開設しようとする人がそういう備品を準備するんやったら、県の補助金は２分の１であるけども、ほんなら橋本市は、その残りの２分の１をということは４分の２やから、４分の１でもつけたろかと。ほんで、実際やる人が４分の１出したらそれでできるわけや。そういうことも考えていってやらんと、これから増えていけへんと思う。

本来は地域密着型ということで、橋本東こども食堂については四つの自治会が協力してやってるんですよ。これは僕は自分もかかわりあるし、松浦議員もかかわっているんで、これは橋本市のモデルになるんかなと思うんです。地域で地域の子どもら、地域のお年寄りも来て、みんなが来て、こども食堂で食事をしながら楽しんでいく。そこへ、橋高のボランティアの生徒が来る。ほんで、地域のボランティアが大勢くる。みんなでやっていくということで、ものすごい僕は地域での子育

てとかいろんな地域コミュニティの中心的な役割を果たせるこども食堂じゃないかと思っています。そういうものをやっていこうと思ったら、もうちょっと支援をしてやらんと、うちは自治会が負担しとるわけですわ。最初のいろんな物を買うときに、自治会が負担しとる。県の補助金で出ない部分、備品と違う部分があるでしょう。ヘアーキャップとかマスクとか消毒液とかいろんな物を自治会が負担しとるんです。自治会がやってくれるところはまだええとしても、そういう物で要るんだったら、いいことでもなかなか伸びていかないと思うんです。

そやから、やっぱりこれがほんまに、市長はいろんなところで「橋本市はこども食堂をやってます」ということを言うてくれとるんでね。ということは、私は市長の政策の大きな一つやと思とるんです、解釈しとるから。僕はボランティアの人に言うてます。これは平木市長の政策の大きな一つやから、みんな協力してやってよと、頑張ろうよと言うとるんですよ。それやったら、何かちょっと考えていってやらんと、今のままで終わってしもたら、うちらは続けますよ、続けられる状況にあるんやけども、それでもやっぱりいろんな意見が出てくるんですよ。

そやから、実質的に備品の問題もあるし、運営の関係でいえば、子ども35人、大人25人、60名で計算したら、年間８万円から10万円の赤字になるんですよ。そうでしょう。そういうものを負担してくれとるわけですよ。保健福祉センターでやっているところは、個人の方が私財をなげうってというか、私、自分のお金で５年間やったらできるかもわかれへんと言うてやってくれとるわけですわ。とりあえず５年間はやろうと、自分の金でやろうか。ほんで、御幸辻のほうでは、個人さんが自分のお店の休みのときにやってくれとるわけですわ。そういうことについてね、これは答弁の最後に一応言うてくれとるんですよ。いろんなことを話し合いしながらね、平成31年度に向けてこども食堂の運営維持、拡大につながる支援策の検討。検討ってね、去年９月からやっとるん、実際ね。２箇所やって、４月からもう一箇所やって、６月からもうやっとるんや。一日でも早くそういう情報交換会、何回かもうやっていますけども、そこでもいろんな意見が出てきているんで、一日でも早くそういう運営維持できるような状況、拡大につながるような支援策を考えてあげてほしいんです。ちょっと答弁ください。

○議長（岡　弘悟君）総合政策部長。

○総合政策部長（上田力也君）先ほどのちょっと手前の質問ともかぶるんですけども、本市がめざす最終的なこども食堂の姿というのは、地域という話をさせてもらっていますけども、基本的には、将来的には子どものことなんで、歩いて行ける距離というのが本来望ましいのではないかという、そういう思いはございます。そういう理想形に近づけていくために、事業主体は各事業者、民間ということなんですけども、どれだけ支援をしていけるかというそういうことでございます。

昨年９月に一つの事業者が開設されて、この８月でようやく１年がたつということですので、その１年経過した段階で、私どもとしては各事業者のいろんな意見もいただきながら、そして、また各事業者間でもいろいろ話もしていだけるような機会も持っていこうと思っていますので、そういった意見とか状況とか、先ほど年間８万円から10万円の赤字という話もありましたけども、そういう経営状況、そういったことも聞かせていただいた上で、将来的に市として先ほどめざす姿と合わせて、継続性ということも考えて制度設計を行っていきたいというふうに思っております。

早いことという話なんですけども、やっぱりまだ１年もたっていない状況でもありますので、いろんな事業者によっても、いろんな考え方、思いもあると思いますので、そういったところを聞き取りながら制度設計をしていきたい、そのように思っております。

○議長（岡　弘悟君）20番　辻本君。

○20番（辻本　勉君）部長ね、その事業者の話って、はっきり言って悪いけど、全然把握していない。担当室は全て把握しているよ、もう今の段階で。運営状況とかいろんな問題を担当室は把握している。何で担当部長が把握してないん。担当課全て、担当者は把握しているよ、もう１年もたったら。やるためにいろんな話をしているわけや。開設についてのいろんなアドバイスもいただいて、いろんな話をしているわけや。開設者は現状はどうやでということもわかってるわけよ。担当室も必ず来てくれたりしてるし、状況もわかってるし､運営状況もわかっている｡みんなの、やっている人の考え方というのもわかっている。そんな中で何でもっと早く行政としていろんな方針、僕はね、出せへんのやったら出せへんでええんやで、ほんまに、出す気ないんやったら。それこそ支援する気がないんやったらそれはかめへんのよ｡かめへんけども、それやったら地域でやってよって、頭からお願いしたらええんや。全てのことを地域でやってよと。ボランティアもせえ、お金も出してよ、全部出してよと、全てやってくれたらいいですよってそないしたらええわけやん。別にそこまでね｡ボランティアの人の中には、そんなん市から何かしてもうたらね、そんなまたいろいろ束縛されたらかなんしね、私らでやれるだけやるよという人もおるんよ。

そやから、別にあえてそういう支援をしてもらわんでもかめへんことはかめへん。かめへんけども、そのかわり市はいっこもタッチしていませんよと。それは地域のボランティアの人が全部やってくれとるんですということで宣伝してくれたらええわけや。今の状況やったらね、市がやってくれとると思っているわけよ、みんな。ボランティアで来る人でさえ思っているから、周りの市民はみんな思っとるわけや。「橋本市ええことをやってくれとるな」と思っとるわけよ。橋本市がやっとるんと違うんや。地域ボランティアがやっているわけでしょう。そやから、もっと速やかに支援したるんやったら支援したってくれたらええんです｡運営補助金を僕は出せとか、そういう話ではないんですよ、別にね。こういう財政状況厳しかったらね、なかったら別に出さんでいいもええでしょう。そやけど、最初にこれから広めていくんやったら、最初にやろうかというところを、そういう設備関係のちょっとしたね、県と比例してね、何ぼかやってやる。そないしたら取っかかりがあるわけや。それはやるけども、後は皆さんで頑張って運営しやと言うていったらええわけでしょう｡そんなことすらようせんのかいと、行政は。

大きなところで、公民館とかという話、指定してくれとるけどね、今これからの話をしたときには地域でやっぱりやっていかなあかんわな。うちは地域で歩いてこれる子どもを対象に､地域密着型でやりかけとるんですよ。そんなんがどんどん広まるのは一番ええわけでしょう。これからの橋本市の子どもたちにとってね。これはただ単なるこども食堂で食べるだけじゃなしに、子育て支援もできる、地域のお年寄りも来て子育てについても話し合いできる、三世代交流ですわ。そこへ高校生もボランティアで入ってくる。いろんな意味で地域コミュニティの充実されていくわけでしょう。それは地域密着型で、周辺自治体が二つ三つでもええ、１個でもええ。やって

いったら僕は一番ええと思うんですよ。地域の子どもは地域の中で面倒を見ていくということなんで、それはええと思うんで、みんなそういう気持ちは持っとるけども、ボランティアもせえ、何もかもせえ、市がやってますよというような話にはならんと思うんです。市としてどれだけ支援できるかということをやっぱり考えてもらいたいんですよ。

○議長（岡　弘悟君）総合政策部長。

○総合政策部長（上田力也君）私は決して支援に対して後ろ向きな姿勢ではございません。また、私も現場へはちょくちょく行かせていただいておりますので、ある程度の事業者の考え方というのも認識をしておりますし、事業者によっては自分のところでアンケートをとっている、そういうところもありますので、そういった状況というのは全てが全てではありませんけども、認識はしております。

ただ、これから基本的には子どもから高齢者まで住み慣れた地域でという、そういう政策目標に照らし合わせて、午前中、教育長からも話があったんですけども、教育と福祉を連携させていく、いわゆる「たすけ愛はしもと」であるとか、第二層協議体のこともやってますけども、そういったところとの関連性も踏まえた中で、制度設計はやっていきたいというふうに思っております。スピード感がないと言われたらそれまでなんですけども、やはりこれから継続をしていってもらいたいという、そういう思いがありますので、そこについては慎重に考えていきたい、そのように思っております。

○議長（岡　弘悟君）20番　辻本君。

○20番（辻本　勉君）そんな理屈はいいんですよ、私は。そんな理屈はわかっとるんです。ほんで、部長言われるように、そういう後ろ向きではないけどね、そやけど何らかの形で出してもらわんことにはね、口だけやないかって思うわけ、みんなね。考えていきますと言うても、もう今の段階である程度考えていってやらんと、これから全市的にやっぱり広まることが望ましい、各地でさらに開設されることが望ましいと言うているんやったら、今の段階で何らかの方策を考えていってやらんとね。今、そんなへ理屈ばかり言うとってね、考えてますでは進めへんのよ。みんな一生懸命やっとるんよ、ほんまに。実際、ボランティア14名来てよ、前の日から来て、当日も２時頃から来て９時回るまで調理してね、やっとるわけや。60人、70人前の調理をして。地域のお年寄りも来て子どもらと遊んどるんや。それはほんまに考えてもらわなあかんのよ。言うたら悪いけど。また、最後にいっぺん市長に聞くけども、そやけどそれはほんまに考えてよ。

それと、公的な施設を使ったときの話ね。僕、細かいことはほんま言いたくないんですよ。そういう補助金とかろんな問題で支援を大きく考えてくれるんやったら、こんな細かいことは言いたくないんやけども、公共施設を使ったら光熱水費はただなんよ。それは使っとるからね。分けてメーターもあれへんから出てけえへんわな、どれだけ使っとるかわからへんから。ただなんよね。２箇所はただなんよ、光熱水費が。あとの２箇所は自分のところで払っとるわけよ。こんなんどないするんよ。こんな不公平な政策ってあるか。全てが公共施設を使えるんやったらええよ。今言うてるとおりに地域密着型でしていこうと思ったら、全ての公共施設を使われへんやん。

隅田の公民館で隅田の地域の人みんな来れるん、歩いて、山内らの人来れるん。そういうところでしたら水光熱費はただやけどやで、山内の集会所でしたら金要るんかいと。こんなんはね、ちゃんとした補助制度をつくってくらたら、こんな細かいことをごちゃごちゃ

言えへんのよ。補助金制度とかそういう支援がないんやったら、これはほんならどないするんですか。この光熱水費のお金の部分についてはどないするん。何か支援あるんやったらこんなん言えへんで。取り消すよ、こんなんは。そやけど、ないんやったらこれをどないするんなというぐらいは答弁してよ。

○議長（岡　弘悟君）総合政策部長。

○総合政策部長（上田力也君）支援策のメニューについては、私どもも是非は別として幾つか考えております。まず、最初に議員がおただしいただいた、いわゆるスタートアップというか、設立時の補助金ですね。これについていくらか支援できないか。それから、ボランティア保険等について支援できないかであるとか、あるいは公共施設等、それを利用していない。これから増えていくという方向性においては、当然公共施設というのは限られていますから、公共施設を利用しないこども食堂のほうがより多くなっていくという、そういうふうにも認識をしております。ですから、幾つかのメニュー出しというのは内部でも検討はしている状況ではありますけども、やはりきちっとした形で制度設計をしていきたい、そういうふうに思っております。

○議長（岡　弘悟君）20番　辻本君。

○20番（辻本　勉君）制度設計していきたいと言うているけど、それいつまでやるんですか。31年やったら僕は遅いと言うとるんです。31年度に向けてってね、31年度からやりますと言うたらね、そうでしょう。ほんで、悪いけど、この辺の光熱水費の問題、ごみの問題もあるわけやな。ボランティアの保険は入ってくれました。言いましたんで、ボランティア保険は入ってくれました。そやけど、子どもたちの保険、あそこに来る人の利用者の保険は入っていかなあかん部分がある。ごみの問題もある。最初、ごみ袋１枚、２枚も出してくれへんだんですよ、はっきりいうて。こども食堂で出てくるごみをどないするんなという話でいうたら、どないしたらええんや、どない支援しようかという話もなかった。もうちょっとやっぱりもうやっているんから、きちっとやっぱり支援してもらわな。メニューって言うとるけどね、ほんなら、実際やっとってね、光熱水費で言うてやで、差があるやつは、こんなんは早く是正せなあかんのちゃうん。ほかの支援が出たら、こういうのをなくしてもかめへんやん。当分はそういう問題点、実際、確実に要る光熱水費については同じようにしますということにしといやで、ほんで、またいろんな補助制度ができたら、それはもう全体の中でやってくれたらいいですよという話でええわけや。

いつまでにやるんか。もう31年までと言わんと、ちょっと答弁してよ。

○議長（岡　弘悟君）市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君）辻本議員の質問にお答えをします。

私どもの基本的な考え方は、地域のボランティアの方でやっていただくのが一番ベストかなというふうに思っています。公共施設を使っていただくというのは、例えば、家庭を改修してそんなところでやってもらっても、逆に長続きせえへんやろと。そんな広いところ、例えば、借りたところで、やっぱりなかなか難しい問題があるから、公共施設を使ってもらったら光熱費は無料で結構ですよと。じゃあ、原田区、今やってもらっている橋本東にしても、全くうちが支援してないかというと、あそこの使用、ただでお貸ししているわけですやん。そこの部分はね。

だから、一つ、私も実はこの間も連携室を呼んで、これからどういう形の支援をしていくんやという議論もやってます。その中で、

ただ、今やってもらっている民間のうさぎさんとか、お金出せという話も聞いたことがなければ、今福祉センターでやってもらっている方から「私たち５年間しっかり頑張るよ」と言ってもらっている。高野口の場合は、今やっている事業者が事業所の都合で撤退するようですけども、ただ、そういう中でやはり事業者として本当に「じゃあ、もう橋本市お金出してよ」というような意見がまとまって来るのであれば、それはそれで考えていけばええし、補助金出してやるんやったら、公設公営でやるかいという話にもなってくるかなと思うんですよ。公民館で公民館の職員に協力してもらって、職員が行って協力するような形もとれるかなというふうに思っています。

ただ、今はそういうボランティアの方とかＮＰＯの方の善意でやってもらっているというところもありますし、そういう中で、これはどうするんやという話もします。先ほどから聞いてたら、市が全く支援をしていないというお話をされてますけども、食材の提供については市が中心になって企業を回ったり、例えば、レタスのところからも規格外になった商品を今提供してくれるように頼んでいるし、あるいは、企業のほうへも行って食材を出してよというふうな支援もしていますし、給食センターがもうじきなくなるんで、そういう食器類をそこに提供したり、いろんな支援はしているんですよ。全くしてないと言われると非常に心外なんですよ。ただ、本当にこのこども食堂をこれから長く続けていくためにはどういう形がいいんかというのをこれから考えていかなあかん。本当にボランティアの皆さんが協力してやっていただくことに広がっていくのであれば、どういう支援が必要ですかとこれから聞いて、そういう制度をつくっていくということも大事かなとは思っています。あくまでこども食堂というのは、ＮＰＯの人であったり、ボランティアの方が善意の姿勢でやっていただいている部分もありますので、その中で31年は遅いというのは辻本議員の考え方なんですけども、私としてはどういうことをすることによって、長くこども食堂を続けていけるんかというふうなことを今、考えている。

例えば、一般質問でもお答えしましたように、いっぺん米でもつくってそれをこども食堂に配るか。例えば、シルバーに委託をして、休耕田を借りて米をつくって、その米をこども食堂のほうへ配っていこうかとか、そういうことも内部でいろいろ協議しながら、やはり一番の問題は食材をどうやって確保してあげる、少しでも負担を抑えるためにはどういうことをしていったらいいんやという、まさにこれからどういうことが必要なんかということを今はしっかり議論するところやと思うんです。

今、議員からそういう意見を聞いて、逆に事業者からはそういう話を私は全く聞いてないです。お金出してくれとか、そういう部分は全く聞いてないし、ただ、本当にそういう大きな規模でやるのか、公民館で地域のほんとうに子どもたちだけ来てもらって、公民館を使ってやってもらうのか。これはいろいろ種類があると思うんで、その地域の人たちがやってくれる範囲でできたらいいのかなというふうに思っていますし、これからどういう方法で増やしていくんかというのは、逆に私たちの課題でもあるんです。これを末永く続けてもらうためにも、どういうふうな形の支援をしていくんかというのもまだ始まったところ。辻本議員のところがやっていただいておるのは６月からスタートしたばっかり。うさぎさんも今年になってからやってもらったところで、うさぎさんがどういうような考え方でおられるのかというのも、直接これから

聞きながら、いっぺん、今やっていただいている中で、どういう支援が必要ですかというのをやはり聞いた上で支援をしていくというふうにしたほうがいいのかなというふうに思っています。

私たちとしても、できるだけの支援はしていきたいと思いますが、そういうボランティアの精神でやっている人たちのやはり邪魔にもならないような、やっぱりこども食堂の運営というのを考えていったらええのかなというふうに思います。県の補助金、私もあれは使いにくいと思います。でも、それを自宅であるとか貸店舗を、例えば改修に使って、逆に費用ばっかりかかってできんようになるんであれば、今余っている公共施設、特に調理場というのはあんまり実際使われていないという現実もあるんで、特に夜は使われていないケースもあるので、そこを有効活用していくことによって公民館に来ていただくということも、そこで本を読んでもらうとか、そういうことも必要かなというふうに思っておりまして、決して何も考えていないんじゃなくて、これからの先どういう形でいくかという。かといって、ボランティアの方の意思というのもありますから、ほんまにそういう方からお金くれという話は聞いたこともありませんので、そういう中で橋本市としても支援のあり方というのをしっかりと検討していきたいというふうに思っています。

○議長（岡　弘悟君）20番　辻本君。

○20番（辻本　勉君）私は橋本市が何もしてないとは言うてないですよ。推進室は一生懸命やっていただいています。それを受けて、私たちもボランティアでばっかしやっとるんですよ、お金も出して。誰も補助金を持ってこいとかいう話をしてないんですよ。ほんで、市長ね、一番、私、心外なのが原田集会所をただで貸しとるってね、それとこども食堂と一緒にしてもろたらね、これはちょっとおかしな話になるんちゃう。うちは市から借りて、原田集会所として、あそこ集会所事業をやっています。そこがあるんで、こども食堂もあそこでみんなでやろうよと、４地区で合同して助け合いしてやろうよという話をしとるだけであってね、市が貸してますよってね、ただで貸しますよというのは、それは集会所を貸しているんとこども食堂と一緒にしてもろたらそれはちょっと、これは地域の人も、４地区の区長さんなり、特にうち、地域の区長に言うたって、そこまで言われたらちょっとやっぱしね、あれやと思いますよ。こども食堂とは切り離してもらわんと。

それと、市長言うように、ほんまに公民館、公共施設を使ってやっていったらいいんですけども、先ほどから答弁いただいておるとおり、もっと地域密着型でやっていこうよと、やることが一番望ましい。公民館へ何人かしかけえへん。それもその子らは子育てになってええけども、それよりもこれからはもっと地域密着型で、歩いてこれるようなところでそういうのをやっていくほうがいいんやという意見を市も考えとるし、我々も考えとるわけ。そしたら、そういう公民館、公共施設を使えへんところについてはどういうふうにしていったらええんやなということをやっぱり考えてやらんと、市として。市長、どこへ行ってでも、こども食堂を橋本市やってますと言うてくれてますやん。私も、橋本市の政策として、市長の思いがあってこれをやってくれとるんで、みんなで協力して、やっぱり市民協働でボランティアでやるよと言うとるけど。そやけど、これから増やしていこうと思ったら、今のところはみんな出てないですよ。みんな個人の方も、この人は５年間自分のお金が続く限りやろうということでね、お金も体も使っとる。うちらもボランティアの人が

全部来てくれとる。ほんで、地域で区でやっぱり面倒を見ていこうと。地域の子どもは地域で見よう、区で足らん分は出していこうとやっとるわけよ。

そやけど、これから増やしていこうと思ったら、やっぱり最初のときぐらいは何かの援助をしてやらんと、なかなか立ち上がっていけへんと。僕は全市的にやってもらうのがいいんで、そういう話をさせてもうとるだけですわ。そやから、市が運営補助金を出せへんだら自分らでやったらええだけのことであって、今もやってるんやから。うちはたまたま最初に設備があって、集会所を借りてますけども、冷蔵庫があかんので冷蔵庫を県の補助金で買いました。それ、２分の１なんで、３万円ぐらいしか負担してませんけども、それは地域で負担しようということでやっとるわけです。だから、何も我々は補助金を持ってこいとか、そんなん誰も言うてないですよ。皆、気持ちがなかったら出す必要がないしね。必要がないというんやったら出さんでもええし。ボランティアでやったらええわけやから、全てね。それがいつまで続くかどうかわかりませんけども、ボランティアでやろうと、みんなやっとるんやから、最初は。そやけど、これから増やすことに対しては、なかなかそういうわけにいかんでしょうと。橋本東みたいに４地区の区のご理解をいただいて、不足分はみんなで出そうよ、区から出そうよというようなところがほんまに出てくるかどうかわかりませんよ。

新しいのをつくっていこうと思ったら、地域密着型でつくろうと思ったら、やっぱり何かしたらんと僕はだめやと思うんですよ。そやから、そんな運営はね、運営は任せますよと、運営はもう地域ボランティアとあれでやってよと、それはいい。最初取っかかりだけはやっぱり使いやすい、やっぱりいろんな物が要るんで、設備があったところで。はっきりいうて、冷蔵庫や調理場があっても、要るんです、何ぼかはね。いろんな部分が。そういうぐらいは、最初だけはやっぱりちゃんと市として面倒を見ていったるぐらいの気持ちがなかったら、前向きにそっちのほうが取り組んでくれとるということが目に見えてけえへんからね、今やっとって。

これは大きな施策やと思うんです。実際ね、いろんな意味でいうたら。市長がほんまに頑張っていただいておるんで、これはほんまにええ施策やと思うんです。子どもだけと違って、子育て支援、お母さんも来る。おじいちゃん、おばあちゃんも来るし、いろんなボランティアも来てくれる。地域が活性化されてくる。ものすごくええ政策なんで、そのことに対してはやっぱりもうちょっと目に見えるような、我々はわかるんですよ、食材の関係もね、提供もいろいろ探してくれよるけど、ただの食材ばかりでできんでしょうって。

そやから、今後、地域密着型でやっていく場合にはどういう形で支援していけるんかということをきちっと考えたってほしい。ほんで、市長ね、交流会をやっとるんです。いろんな意見を出しとる。何回も僕も行かせてもらって、何回も話をしとる。そやから、だいたいの意見はわかってきとると思うんで、みんな今の段階で運営補助金を出してくれというところははっきりいってないですよ。ないですけども、うちらは自治会でやっとるけども、中には市が出してくれへんのかなというそういう程度なんで、自分らで年間何ぼか、４地区で負担しようかという話はしとるんでね、それは問題ないんやけども、今後の問題なんです、特にね。

これから、このええ事業やったらもっと増やしていきたい。地域密着でもっと増やしていけたら一番いいんで、何らかの形でやっぱ

りきちっと考えたってほしいというのは、今何もやってないとは僕は言うてないし、ものすごい感謝してますよ。推進室はほんまに一生懸命、２名しかいてないのに２名で一生懸命やってくれとる。夜も来てくれとる。いろんな情報を仕入れてくれたり、自分で直接行ってくれたり、僕らも行ったりしとるんやけど、それはやってくれとる。それは感謝はしとるんやで。誰も市が何もしてないとは言うてないですよ。

○議長（岡　弘悟君）市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君）辻本議員の質問にお答えをします。

先ほど答弁しましたように、これからほんまに何をしていかなあかんのかというところの部分を、今きっちりと協議しとかんと、補助金を出すということはそんなに難しいことでもないですし、本当に必要なところ。でも、給食センターも橋本、高野口もそういう食器とかスプーンとかお箸とか、そういうところの提供というのはできてきますし、今後、本当にお金が要るようなところというのが、実際、今のボランティア中心でやってもらっていますから、その中で何をしていけるのか、どうやったら長く続けていけるのか。また、ほんまにどこまで広げていけるのかという問題は確かにありますし、そういう相談をしていただいたら、適切な取り組みというのもできてくるのかなというふうに思いますし、今、いきなりそういうふうな補助金を出していくとか、支援をしていくというふうなことについてはもう少し慎重に協議をした中でやっていきたいと。ボランティアという人の精神もあるわけですから、そこの部分というのも大事にしていかなあかんと思いますし、これからの少子高齢化時代の中の地域づくりの中で考えていくならば、その地域の中で子どもから高齢者、今辻本議員がやられている場所のような形がやっぱり理想なんで、そこまで持っていくためのことというのは絶対に必要になってきますし、ただ、まだこども食堂もどこまでできるのかというのも、やりたいというような人もいてるんですけども、逆に、そこまでフォローしてくれるような人材がいてないとか、さまざまな問題もあることも事実で、地域の高齢化という問題もあるんで、今、どういう形でやるのよと。こども食堂をこれからボランティアとＮＰＯの人に任せていくのか、行政がどこまでかかわるのかというようなこともやっぱり議論もしていく必要あると思いますし、逆に、「アサショク」というようなことも考える。学校へ来ている子どもが朝ご飯を食べてなかったら、そこの部分のフォローもというようなことも、これからいろいろやっていくうちに問題も出てくると思うので、その中でやはり31年度に教育福祉連携推進室もハートブリッジのほうへ持っていきますので、その中で一つの制度、予算づけをしていこうと、今いうことで、全ての整理をさせていますので、その中でこども食堂も考えていけばいいのかなというふうに思っています。

これは自然に広がっていくということが一番いいのかなというふうに思いますし、その地域の中でやっていただく方が出てくるのが一番ベターだと思いますし、逆に小学校を使っていただいてもいいのかなというふうにも思います。そういう中で、今現実に整理をしているところなので、遅いと言われたら遅いと思っていただいたら結構です。その中で、これからこども食堂が続いていけるようにしていきたいと思いますし、私もこども食堂を今ＮＰＯさんとかボランティアとか地域の方にやっていただいてますというお話をさせてもらっているんで、それが地域に広がってい

くようなことになっていけばいいのかなというふうには思います。

ただ、条件整備というのも確かに考えていく必要があるということも十分認識した上で、今まずどういう形にしていくのかというような議論の最中ですので、31年度の教育福祉連携室にも予算をつけていこうというふうには、今持っていませんので、つけていくという方針でいてますので、その中で調整をしていきたいというふうに思っています。

○議長（岡　弘悟君）20番　辻本君。

○20番（辻本　勉君）市長のお考えはわかりましたので、これで終わりたいと思います。

○議長（岡　弘悟君）20番　辻本君の一般質問は終わりました。

この際、３時45分まで休憩いたします。

（午後３時28分　休憩）